

2026年版

ITフリーランス市場・活用調査レポート

デジタル人材とITフリーランス活用の現状

目次

01 | はじめに

02 | ITフリーランスの市場規模について

03 | ITフリーランスを活用する企業動向

ITフリーランス人材の活用状況

ITフリーランス人材の活用満足度

ITフリーランスの活用目的

ITフリーランスに求める勤務スタイル

開発現場における生成AIの活用方針

ITフリーランス活用における課題・悩み

ITフリーランスへの発注単価の変化

ITフリーランスの正社員転換

ITフリーランスの契約終了理由

「週5日フルタイム」以外の稼働について

04 | ITフリーランスエージェントの市場動向

ITフリーランスエージェント事業者見解

05 | まとめ

06 | 調査について

調査協力企業

はじめに

01

はじめに

本レポートは、日本国内で拡大を続けるITフリーランス市場にフォーカスし、その最新動向を多面的に分析したものです。経済産業省「IT人材需給に関する調査」や内閣官房日本経済再生総合事務局「フリーランス実態調査結果」などの公的データを基礎としつつ、本調査独自に500社以上の活用企業責任者へ直接ヒアリングを実施し、現場のリアルな声を詳細に捉えています。

加えて、当社が運営するITフリーランス向けプラットフォーム「フリーランススタート」(<https://freelance-start.com/>)を通じて提携するフリーランスエージェント事業者から、市場の今後の展望に関する知見を収集し、多角的な視点で分析を行いました。

本調査を通じて、ITフリーランスとして活動するデジタル人材の動向、彼らを活用する企業のニーズ、そしてフリーランスエージェント市場のトレンドを明らかにし、関係する全ての皆様の事業推進や意思決定の一助となることを願っています。

参考:IT人材需給に関する調査 (https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)

参考:令和4年フリーランス実態調査結果 (https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/freelance/dai1/siryoku15.pdf)

ITフリーランスの市場規模について

02

ITフリーランスの市場規模について

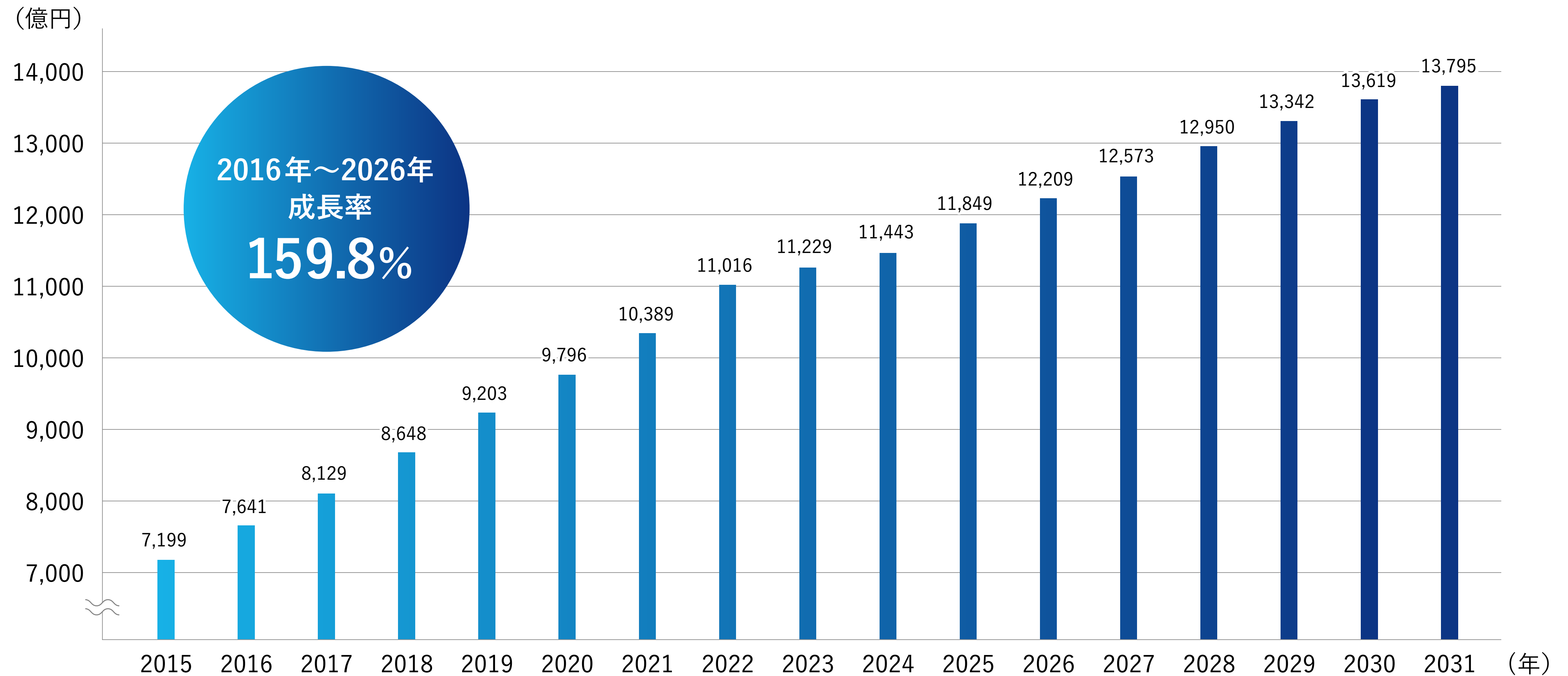
ITフリーランス市場は、この10年で大きく拡大してきました。働き方の多様化を背景に、高度なスキルを持つIT人材が企業に属さず、プロジェクト単位で参画するスタイルは着実に市民権を得ており、フリーランス人材はその最前線として市場を牽引してきました。その規模は2026年時点で1兆2,209億円に達する見通しであり、2016年の7,641億円から約10年で1.6倍の成長を遂げています。拡大を支えた主因は、企業のDX推進とSaaSを軸とした新興IT企業の急成長によるIT人材需要の高まりに加え、コロナ禍を契機としたリモートワーク定着によるDX対応の加速です。こうした環境下でフリーランスとして活動するIT人材の裾野は一段と広がりました。

一方、米国を中心にグローバル企業でエンジニアの削減・採用抑制が進む背景には、AIエージェントの急速な実用化があります。コーディングやテスト工程の一部がAIで代替可能となり、人月モデルの有効性が問い直される中、市場が求める人材像は「量から質」へとシフトしつつあります。

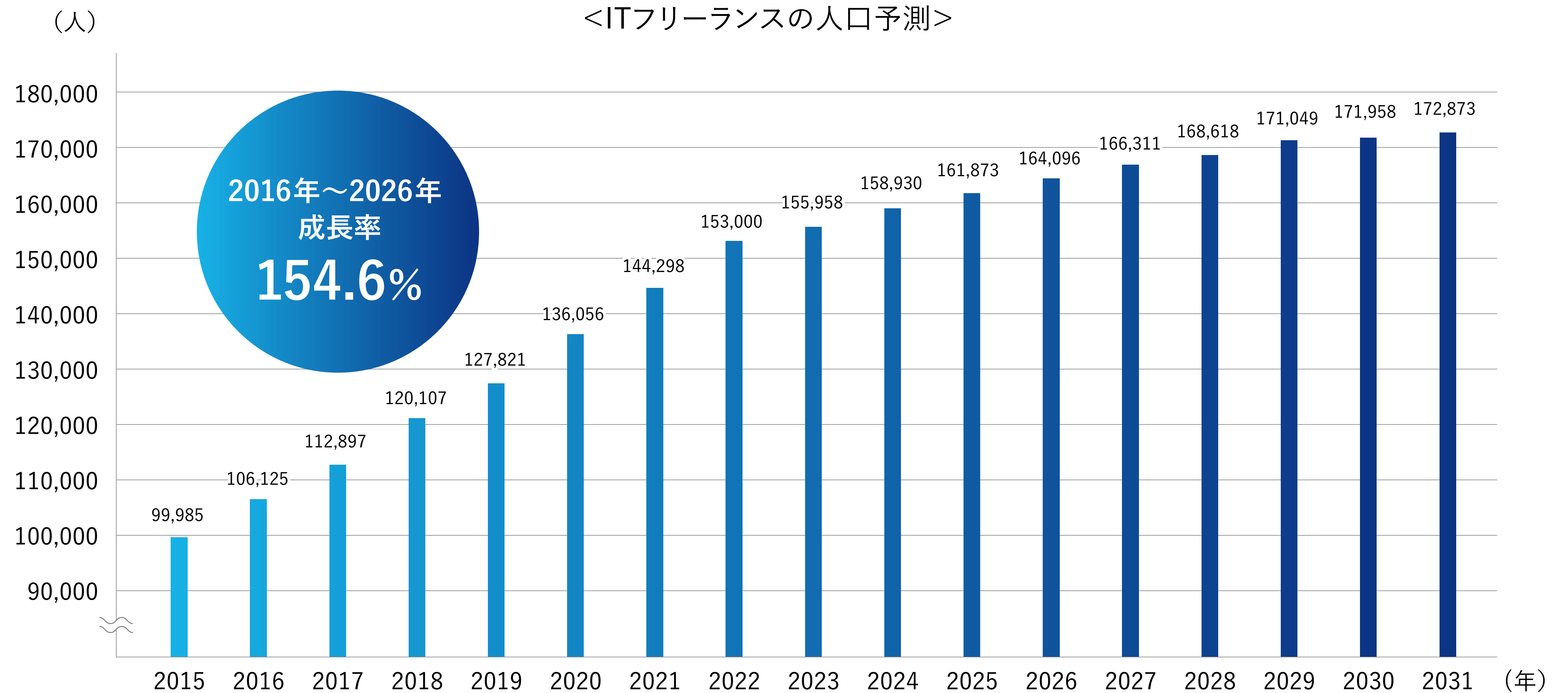
今後は高度なスキルを持つデジタル人材のフリーランス化が一段と加速し、自らのスキルを最大限に発揮できるプロジェクトを主体的に選択する動きが広がると見込まれます。デジタル人材におけるフリーランス比率は2031年に15.5%を超え、市場規模は1兆3,795億円に到達すると予測されますが、国内人口減少に伴い供給は高止まりし、ITフリーランス人口は2028年以降伸びが緩やかになり、2031年には約172,873人でほぼ横ばいとなる見通しです。結果として、市場はポジティブな成長を続けつつも、急拡大期から緩やかな成長への移行局面に入ると考えられます。

ITフリーランスの市場規模について

<ITフリーランスの市場規模予測>



ITフリーランスの市場規模について



03

ITフリーランスを活用する企業動向

ITフリーランスを活用する企業動向

近年、企業におけるフリーランス人材の活用は、慢性的なIT人材不足を背景に、その裾野を着実に広げています。経済産業省の試算でも、今後IT人材の需給ギャップはさらに拡大すると見込まれており、特にDX推進やAI・クラウド領域における専門スキルを持つエンジニアの確保は、業種・企業規模を問わず喫緊の経営課題となっています。

その背景には、複数の要因が複合的に影響していると考えられます。

第一に、正社員エンジニアの採用市場が極めて売り手優位の状況にあり、人件費の高騰や採用リードタイムの長期化により、必要なタイミングで必要なスキルを持つ人材を確保することが困難になっている点が挙げられます。

第二に、フリーランス人材プラットフォームやエージェントサービスの拡充により、特定のスキルを持つエンジニアに短期間でアクセスできる環境が整ってきたことも、活用を後押ししています。加えて、プロジェクト単位での柔軟なリソース調整、固定費から変動費への転換、多様な働き方を尊重する企業文化の浸透なども、活用拡大の追い風となっています。

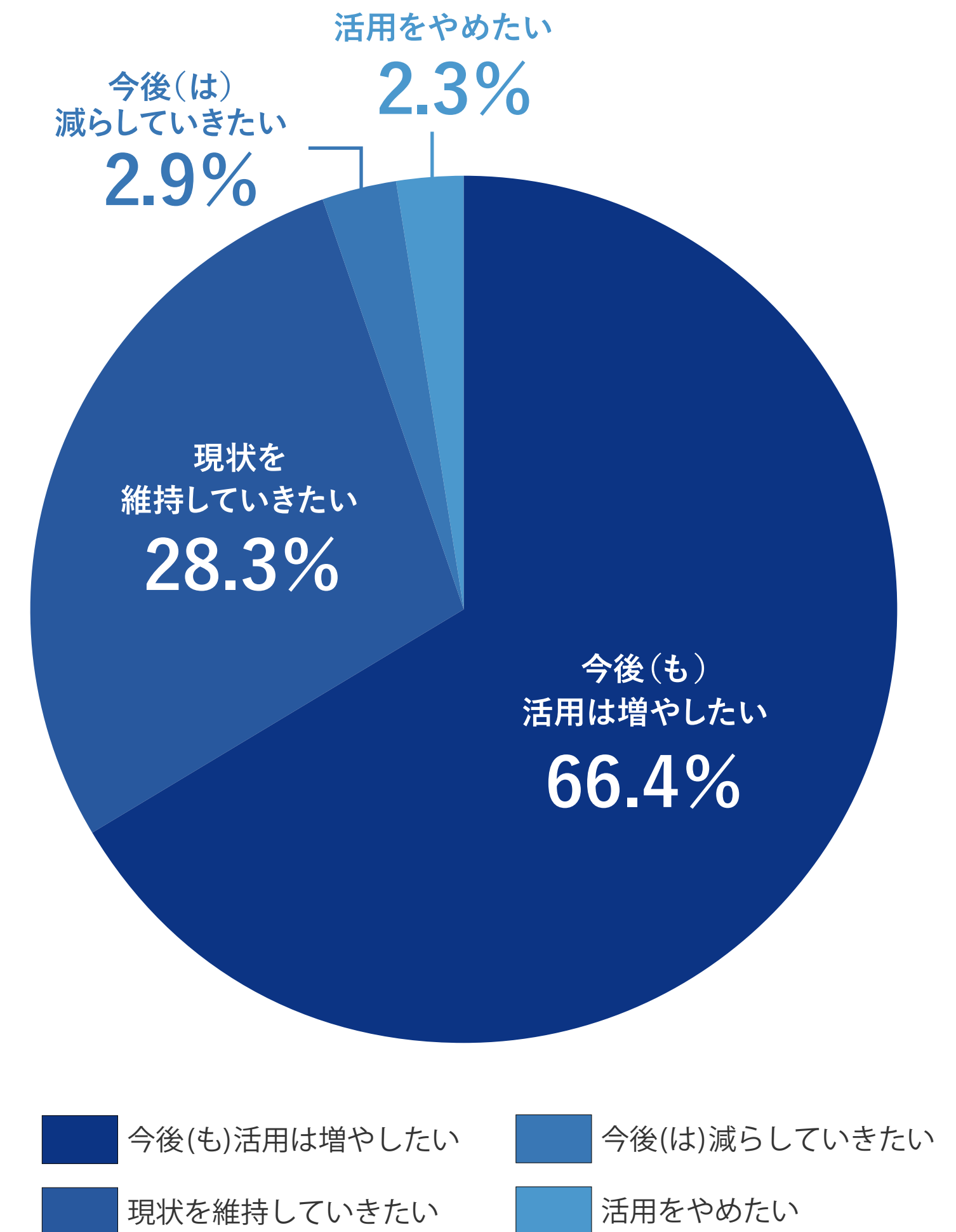
一方で、業務委託契約の適正化、機密情報の取り扱い、いわゆるフリーランス新法への対応など、運用面での課題に直面している企業も少なくありません。

本調査では、ITフリーランス人材を活用している企業の部門責任者へのインタビューを通じて、活用の実態、得られた成果、運用上の工夫、そして今後の展望について多角的に掘り下げています。

ITフリーランス人材の活用状況

企業の6割以上が「今後（も）活用は増やしたい」（66.4%）と回答しており、昨年調査と比較してもその割合は6.6ポイント上昇傾向にあり、ITフリーランス人材の活用に対する企業の意欲は年々高まっていることが伺えます。現状維持を望む企業も28.3%と多く、全体の9割以上の企業がITフリーランスの活用に非常に前向きであることが明らかになりました。このデータは、ITフリーランスが企業の人材戦略において不可欠な存在として定着しつつあることを示しています。

なお、開発手法やチーム体制にも変化が見られます。従来の大人数チームで開発を進める体制から、少数精鋭の高スキル人材がAIツールを活用して高い生産性を発揮する体制への移行が始まっています。この流れの中で、即戦力としてのフリーランス人材は引き続き高い需要がありますが、その求められる役割は「人員数をそろえる」人月の確保から、高い専門性と生産性を持つ人材獲得へシフトしていくとみられます。

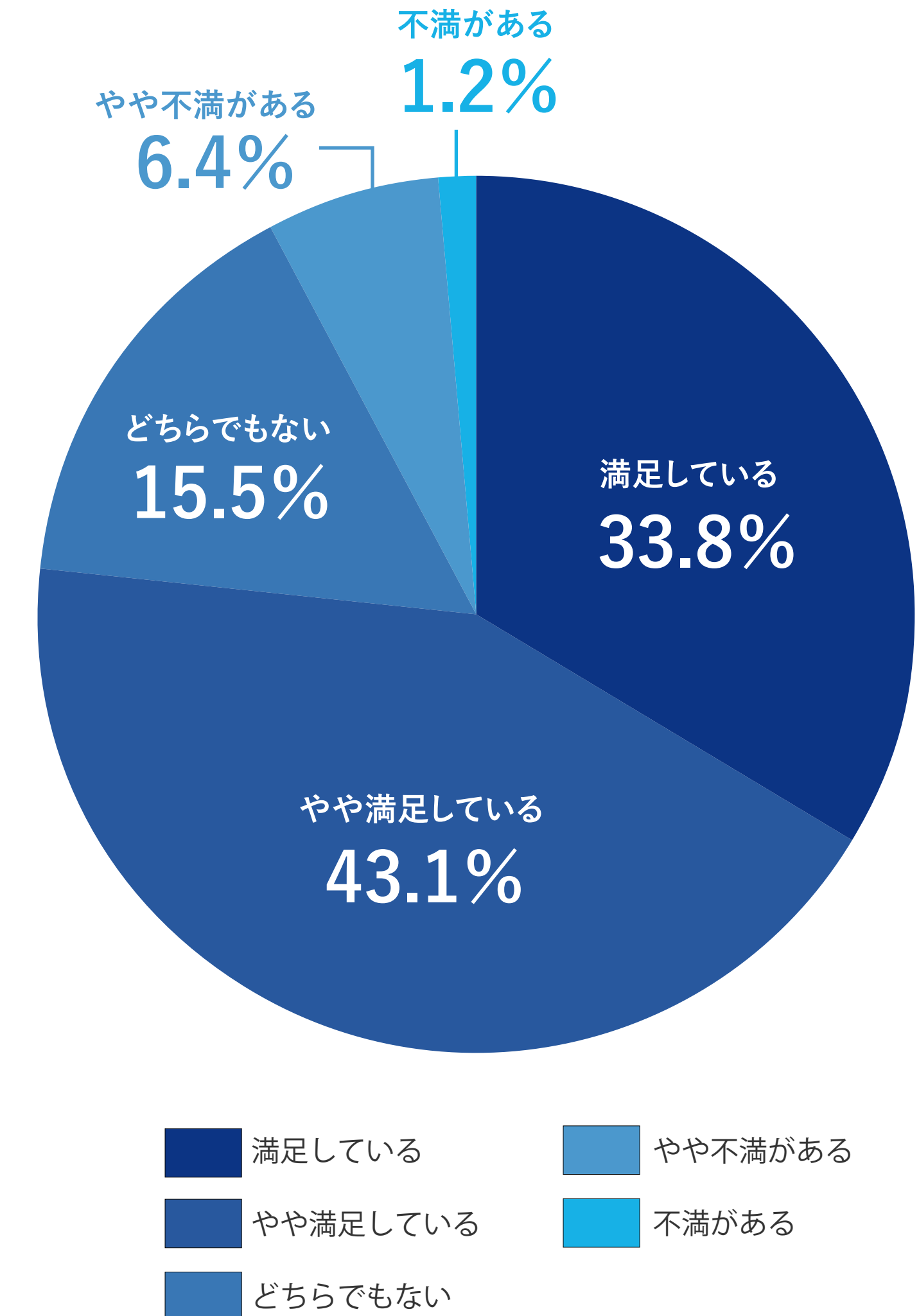


ITフリーランス人材の活用満足度

ITフリーランス人材の活用満足度については、「満足している」(33.8%)と「やや満足している」(43.1%)を合わせると、76.9%の企業が満足していると回答しています。

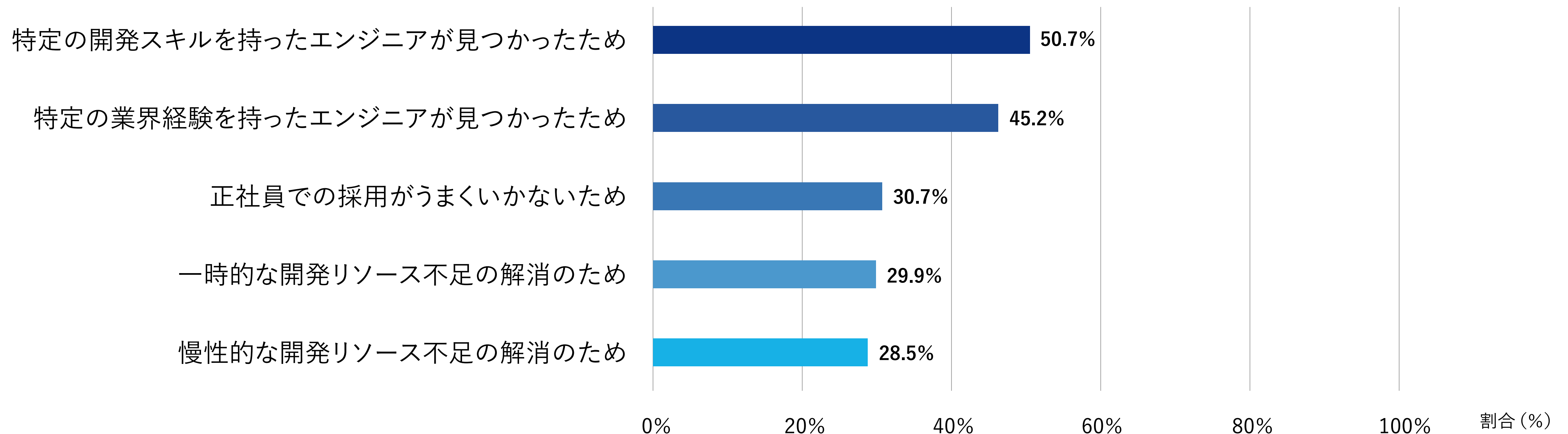
「満足している」の回答は昨年調査と比較して3.5ポイント向上しており、企業のフリーランス活用ノウハウが蓄積されてきていることがうかがえます。

ITフリーランス人材が企業の多様な課題解決に貢献し、その専門性と柔軟な働き方が高く評価されていることが分かります。



ITフリーランスの活用目的

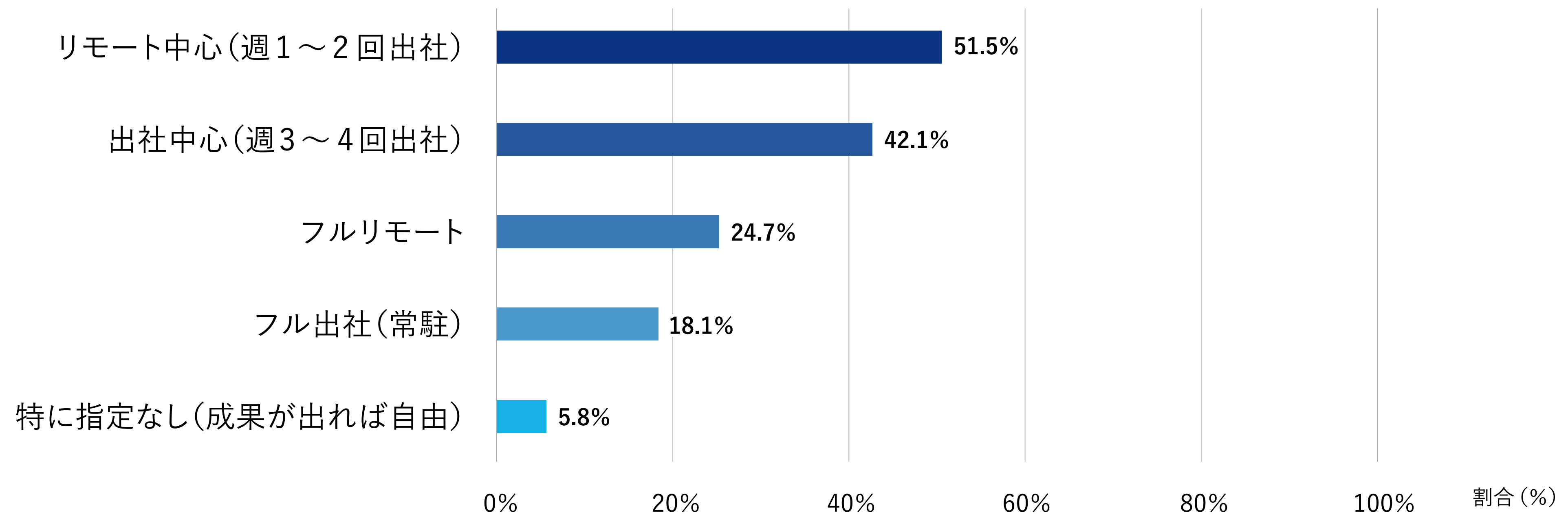
ITフリーランスの活用目的として最も多かったのは、「特定の開発スキルを持ったエンジニアが見つかったため」(50.7%)でした。企業が専門スキルを持つ人材を迅速に確保したいという強いニーズが表れています。次いで「特定の業界経験を持ったエンジニアが見つかったため」(45.2%)、「正社員での採用がうまくいかないため」(30.7%)が続きます。注目すべきは、昨年調査と比較して「正社員での採用がうまくいかないため」の回答割合が2.5ポイント低下している一方で、「特定の業界経験を持ったエンジニアが見つかったため」が7.7ポイントも増加している点です。この傾向から、正社員のみにも頼る採用計画から脱却し、専門人材はフリーランスで確保するという各社のフリーランス活用方針が明確に定まってきたことがうかがえます。



ITフリーランスに求める勤務スタイル

ITフリーランスに対して求めている勤務スタイルとして、最も多かったのは「リモート中心（週1～2回出社）」（51.5%）でした。次いで「出社中心（週3～4回出社）」（42.1%）、「フルリモート（24.7%）」と続きます。

リモートワークの定着は進む中、対面でのコミュニケーションを重視する背景から、一部出社を盛り込んだハイブリッド型の勤務スタイルが主流となっていることがわかります。今後は出社頻度の増加や常駐を求める声が高まっていくと分析しています。

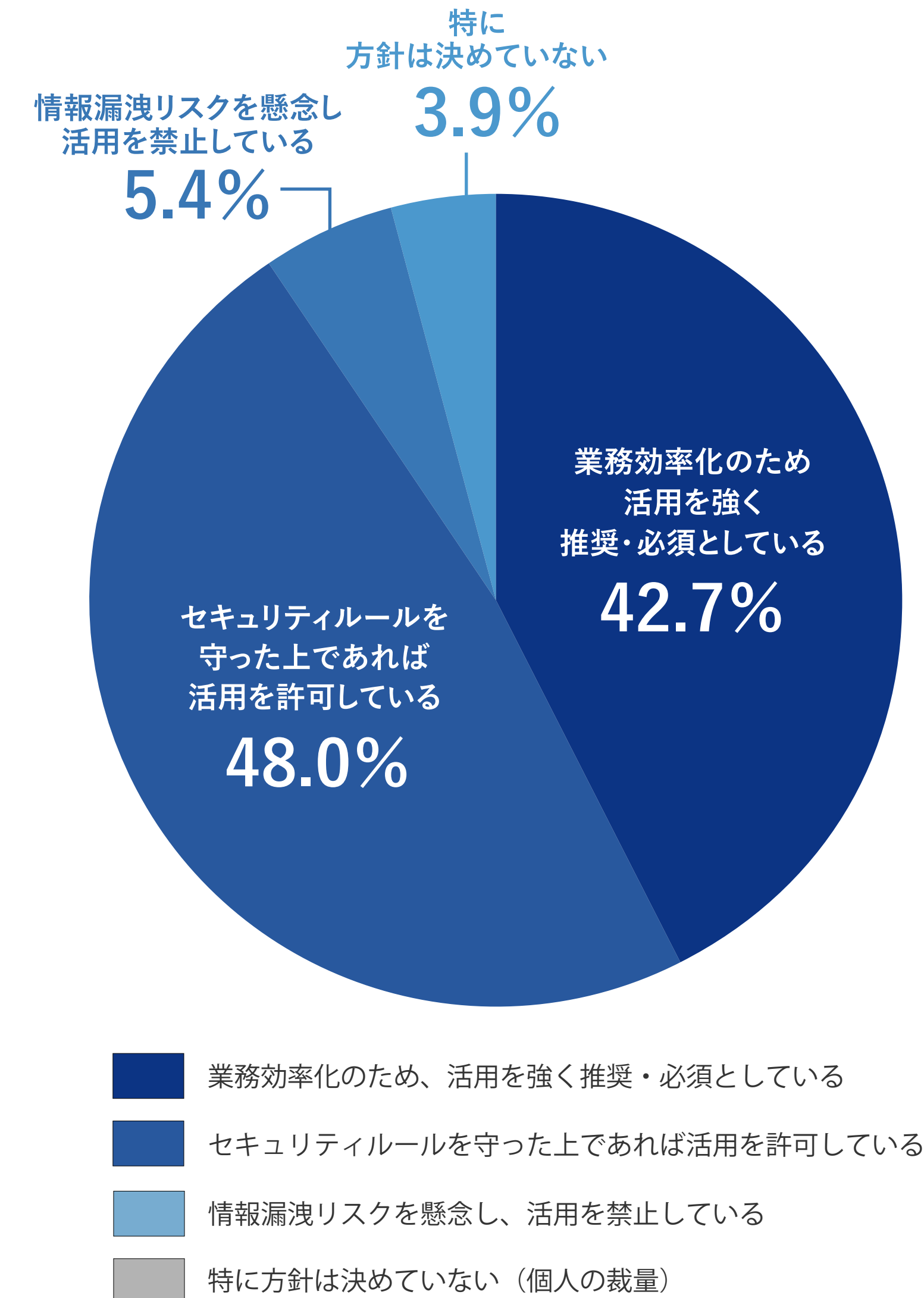


開発現場における生成AIの活用方針

開発現場における生成AIの活用については、4割以上の企業が「業務効率化のため、活用を強く推奨・必須としている」（42.7%）と回答しました。

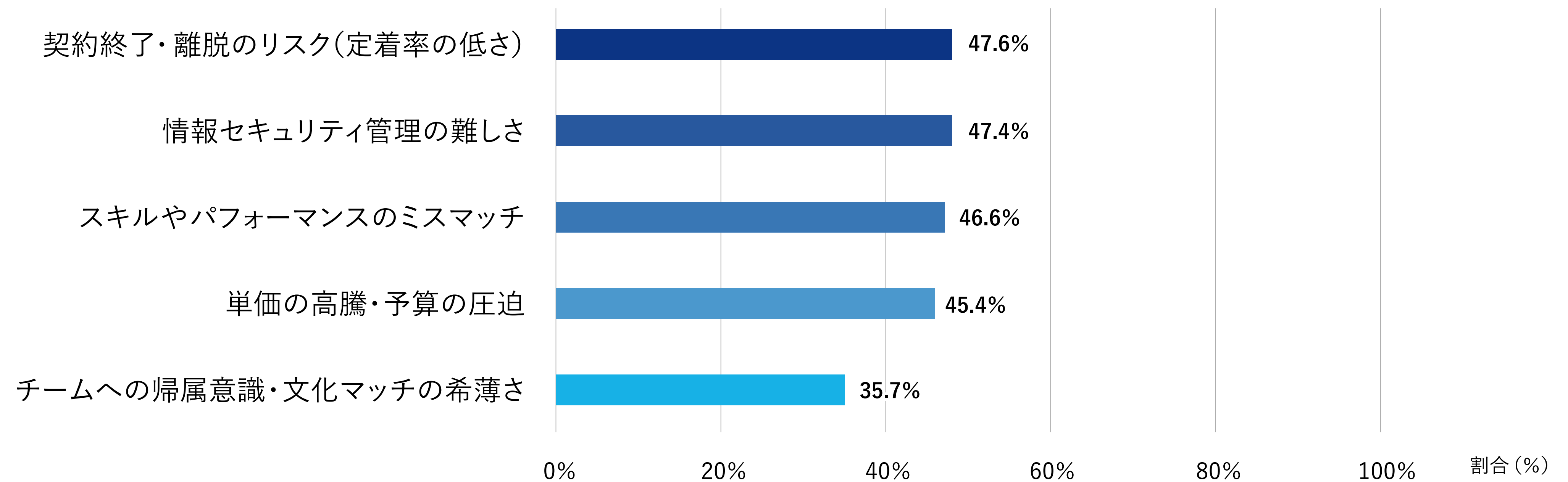
「セキュリティルールを守った上であれば活用を許可している」（48.0%）と合わせると、9割以上の企業が生成AIの活用に向向きであることが明らかになりました。

AI エージェントが開発現場に本格的に導入される中で、AIを使いこなして高いパフォーマンスを発揮できるフリーランス人材への需要は、今後さらに高まると考えられます。



ITフリーランス活用における課題・悩み

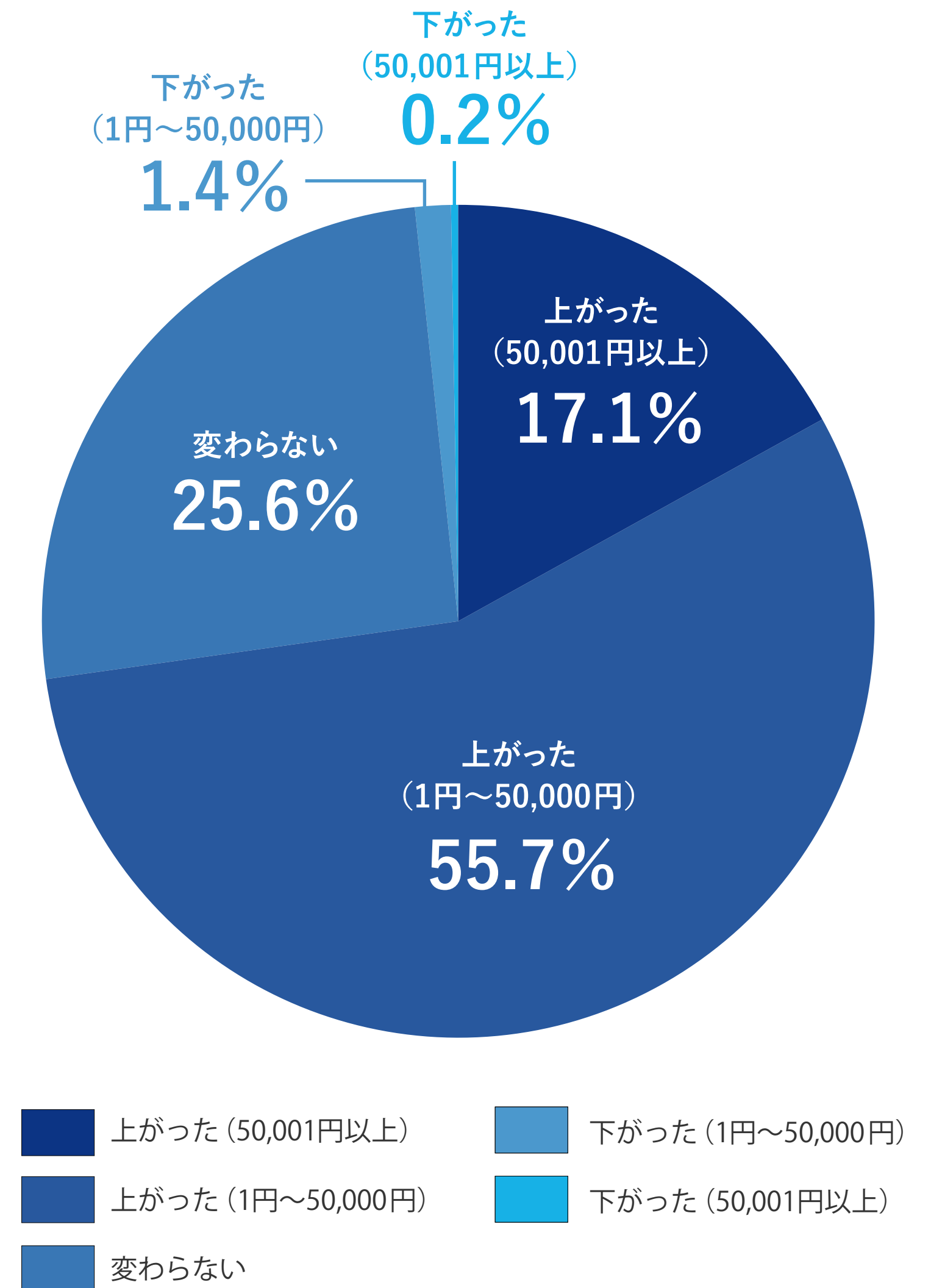
ITフリーランス活用における課題・悩みとして、最も多かったのは「契約終了・離脱のリスク（定着率の低さ）」(47.6%)でした。次いで「情報セキュリティ管理の難しさ」(47.4%)、「スキルやパフォーマンスのミスマッチ」(46.6%)と続きます。フリーランス人材を見極める力が企業側にも求められてきていると言えるでしょう。



ITフリーランスへの発注単価の変化

「賃上げや物価高のトレンドにより、ITフリーランスへの月次発注単価はどう変わりましたか?」という質問に対しては、「上がった(50,001円以上)」(17.1%)と「上がった(1円~50000円)」(55.7%)を合わせると、7割以上の企業が単価が上がったと回答しています。

高度なスキルを持つ人材への需要集中により、単価の上昇傾向は当面続くとみています。

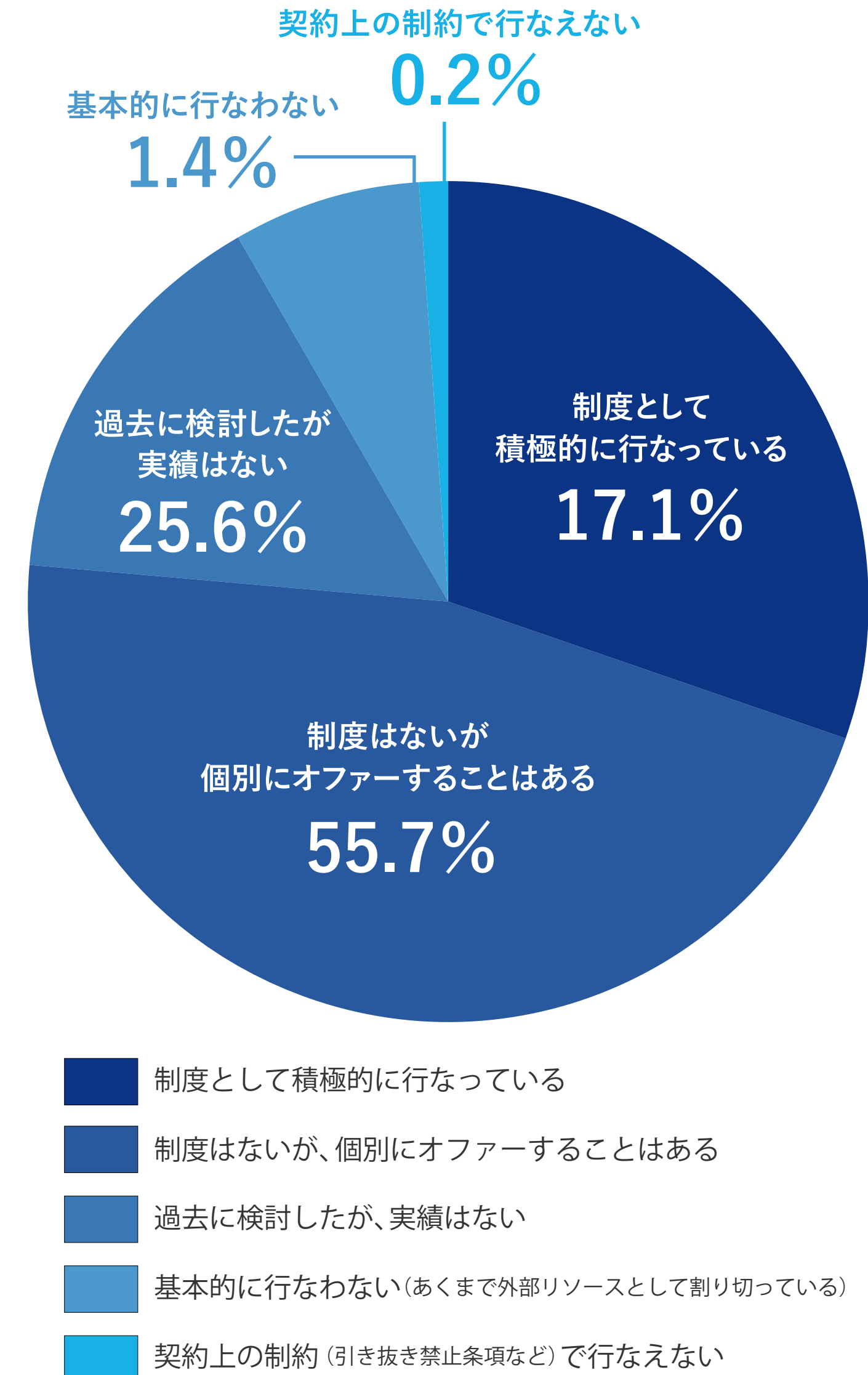


ITフリーランスの正社員転換

「活躍しているITフリーランスに対して、正社員への転換をオファーすることはありますか?」という質問については、「制度として積極的に行っている」(30.5%)、「制度はないが、個別にオファーすることはある」(46.0%)と、7割以上の企業で正社員転換の可能性があることが分かりました。

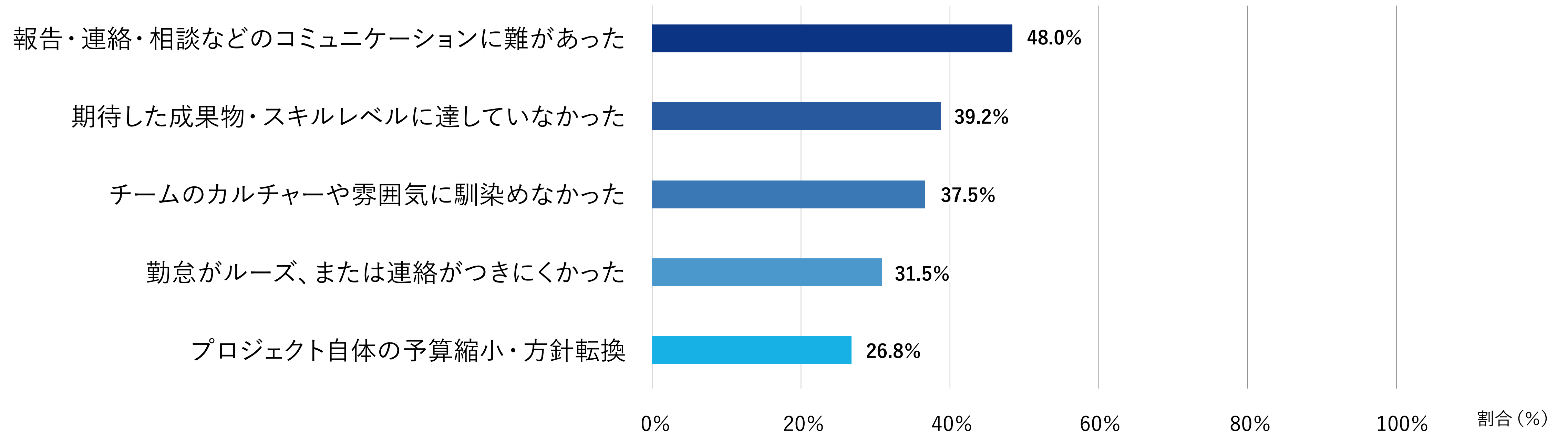
この結果は、フリーランスとしての働き方が正社員へのキャリアパスにもつながり得ることを示しており、優秀な人材の囲い込みを図る企業側の意向がうかがえます。

優秀な人材の希少価値がさらに高まる中で、企業がフリーランスの正社員転換に積極的な姿勢を見せていることは注目に値します。



ITフリーランスの契約終了理由

ITフリーランスの契約更新を見送った（契約終了した）理由として、最も多かったのは「報告・連絡・相談などのコミュニケーションに難があった」（48.0%）、次いで「期待した成果物・スキルレベルに達していなかった」（39.2%）、「チームのカルチャーや雰囲気になじめなかった」（37.5%）と続きました。技術スキルだけでなく、コミュニケーション能力やチームへの適応力が契約継続の重要な要素であることが浮き彫りになっています。チーム間の連携やプロジェクトマネジメント力がより一層重視されるようになるでしょう。

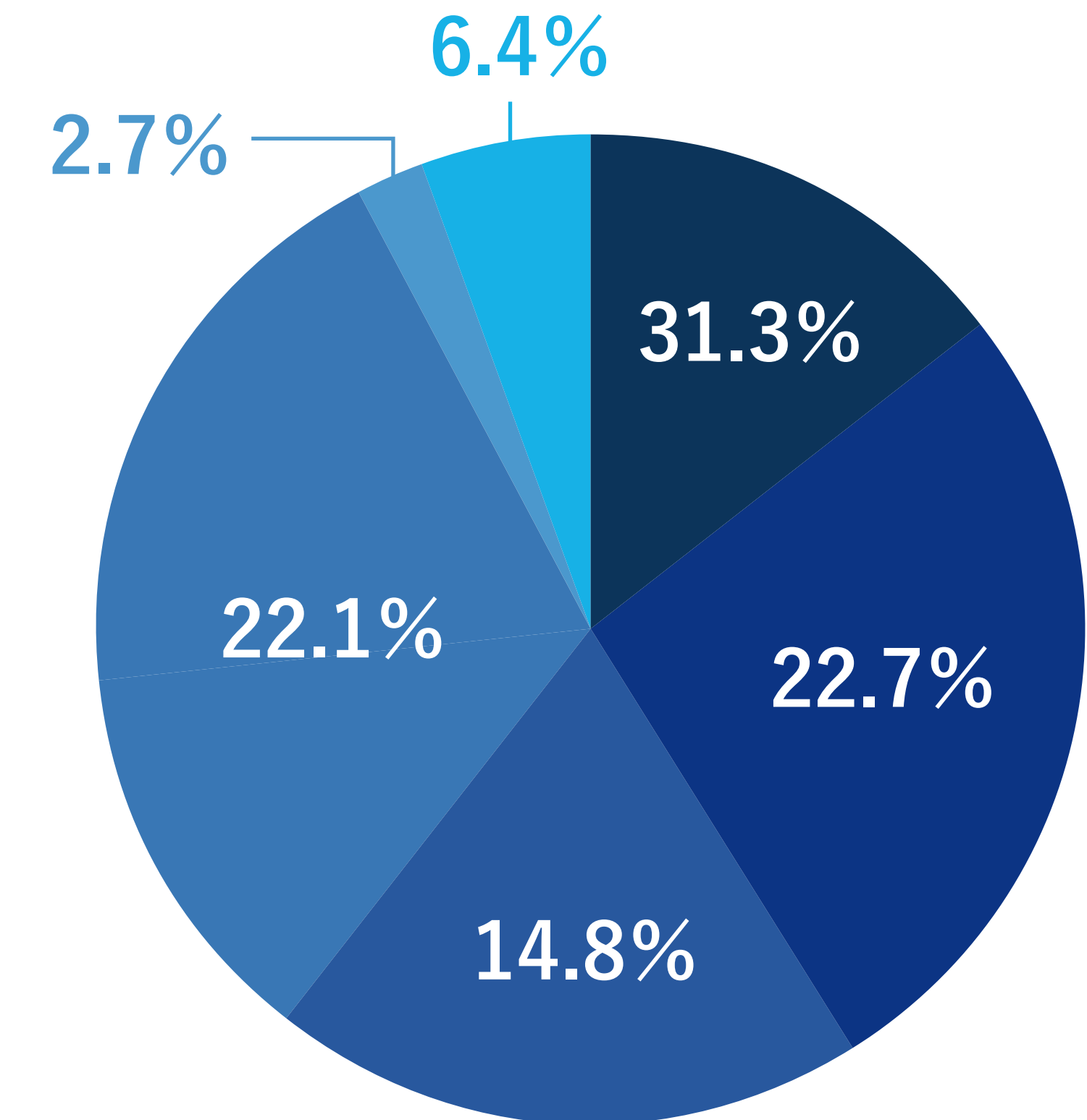


「週5日フルタイム」以外の稼働について

「『週5日フルタイム』以外の稼働（週3～4日や時短など）の受け入れは可能ですか?」という質問に対し、最も多かった回答は「現在は週5日（フル稼働）が必須だが、今後は週3～4日や時短などの受け入れもしていきたい」（31.3%）でした。

「現在は週5日（フル稼働）以外も許容しており、今後も続けていきたい」（22.1%）と合わせると、5割以上の企業が、週3～4日や時短などの働き方を受け入れる意向があることが分かりました。

個人の生産性向上が進む中で、従来のフルタイム前提の働き方から、成果ベースの柔軟な稼働形態への移行が加速していくと考えられます。



- 現在は週5日（フル稼働）が必須だが、今後は週3～4日や時短の受け入れもしていきたい
- 現在は週5日（フル稼働）が必須で、今後も変更するつもりはない
- 現在は週5日（フル稼働）が必須で、今後については決まっていない
- 現在は週5日（フル稼働）以外も許容しており、今後も続けていきたい
- 現在は週5日（フル稼働）以外も許容しているが、今後は週5日フルタイムを必須にしたい
- 現在は週5日（フル稼働）以外も許容しているが、今後については決まっていない

ITフリーランスエージェントの市場動向

04

ITフリーランスエージェントの市場動向

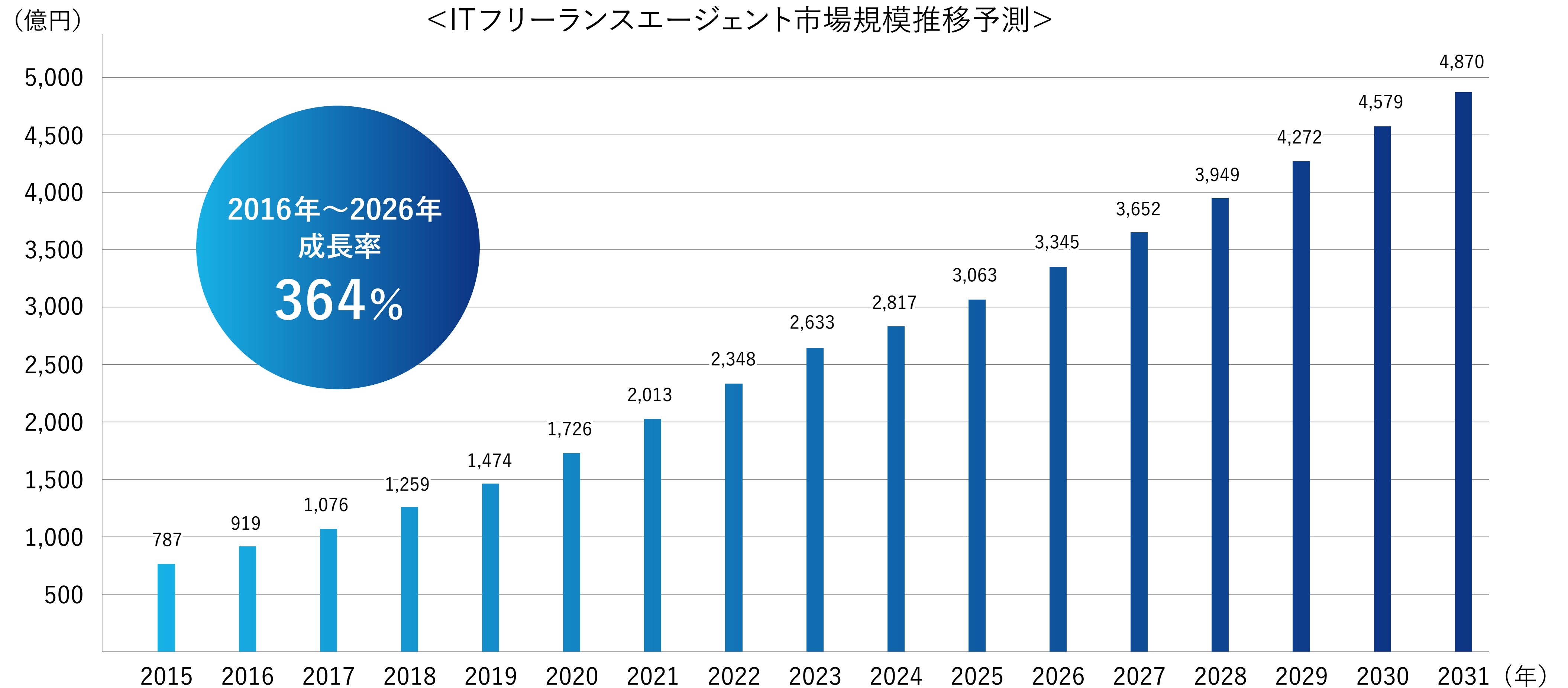
ITフリーランスと企業を仲介するエージェント事業は、IT人材需要の拡大とフリーランス志向の浸透を背景に、着実な成長軌道を描いています。市場規模は2016年の919億円から2026年には3,345億円へと拡大し、この10年間で364%の成長が見込まれ、さらに2031年には4,870億円に達すると予測されており、エージェントが単なる仲介業者ではなく、フリーランスと企業双方にとっての「基盤サービス」として定着しつつあることがうかがえます。実際には、フリーランス側の案件探索や条件交渉の負荷を軽減するとともに、企業側では候補者の探索・スクリーニングからマッチング、契約管理まで、一連のプロセス効率化の役割を担っています。他方で、国内の労働人口減少の影響により、IT人材全体の供給量は今後大きくは増えず、高止まりする可能性があります。

その一方で、DXの本格化や業務の高度化を背景に、ハイスキルなデジタル人材に対するニーズは一段と強まると予想されます。量的な確保が難しくなるなかで、必要なスキルを備えた人材をいかに見極め、適切なプロジェクトにアサインするかが、企業の競争力を左右するポイントとなるでしょう。

このように、市場の重心が「量から質」へ移る局面においては、スキルセットの精緻な評価や中長期的なキャリア設計の支援を通じて、高度かつ的確なマッチングを実現できるエージェントの価値が一層高まります。結果として、ITフリーランスエージェント市場は急成長期から安定成長フェーズへ移行しながらも、その機能的・戦略的な重要度は今後さらに増していくと考えられます。

ITフリーランスエージェント市場規模推移

本調査ではIT領域におけるフリーランスエージェント市場の規模を算出しています。ITフリーランス全体におけるエージェントの活用率をベースに、実際にフリーランスエージェント事業を行う事業者へのインタビューにより今後の成長予測を含めた市場規模推移を算出しています。



ITフリーランスエージェント事業者見解

企業名 INTLOOP株式会社

コメント WX推進統括本部 JC本部 本部長 榎本 翔 氏

フリーランスコンサルタント市場は、DXを推進する企業が増加する一方で高度IT人材が不足しており、売り手市場が続いています。独立の動機として「自由な働き方」を挙げる人材も多く、フリーランス新法の施行も追い風となり、独立への抵抗感は薄れてきています。今後もAIや生成AI領域の案件増加が見込まれる中、案件紹介にとどまらずキャリア全般に寄り添う"ライフパートナー"としてのエージェントの役割が、一段と重要になっていくと考えています。

企業名 株式会社Olive

コメント エンジニアPF事業部 事業部長 遠藤 魁人 氏

IT人材の採用難が続く中、フリーランス人材の活用は企業にとって有効な選択肢の一つになっています。今後はAI、クラウド、データ活用など高度な専門領域の案件がさらに増えると見込まれ、スキルや志向性を踏まえた精度の高いマッチングが、エージェント市場の成長を支えると考えています。

企業名 株式会社クラウドワークス

コメント 執行役員兼クラウドワークス エージェント本部長 徳永 陽 氏

ITフリーランス市場の成長背景には、深刻な採用難から、即戦力を実務へ投入するスタイルが定着したことがあります。今後の成長見込みについては、AIエージェント等の台頭による開発の自動化・高速化が起点となります。このスピード感は、企業には組織のあり方を、ワーカーには目指すべきキャリアの先行きを見えづらくさせ、双方に強い不安を生んでいます。だからこそ、今私たちが果たすべき役割は単なるスキルマッチではありません。双方の戸惑いや本音の事業課題に深く寄り添い、AIには真似できない信頼で人と組織を繋ぐこと。この激変期にこそ、エージェントの重要性はさらに増していくと見込んでいます。

ITフリーランスエージェント事業者見解

企業名 株式会社サーキュレーション

コメント 執行役員 マーケティング兼 FLEXY担当 赤羽 宏之 氏

ITフリーランス市場が急成長期から「質」重視の安定成長へと移行する中、本調査はFLEXYにとって非常に示唆に富むものでした。企業が専門スキルや業界経験を持つ人材をフリーランスで戦略的に確保する動きが加速している一方、契約終了の最大要因がコミュニケーションの問題であるという事実は、マッチングにおいて「スキル」と「人間性・適応力」の両軸で人材を見極める必要性を改めて示しています。また、9割以上の企業が生成AIの活用に向き中、AIを武器に高い生産性を発揮できるプロ人材への需要は一段と高まる見込みです。FLEXYは、こうした市場の質的变化を正面から受け止め、より精度の高いマッチングとプロ人材が互いに高め合えるコミュニティの充実を通じて、企業と個人の双方の成長に貢献し続けてまいります。

企業名 株式会社スリーシェイク

コメント Relance 事業部 事業部長 斎藤 健太 氏

ITフリーランスエージェント市場は、専門人材の流動化と企業のDX・AI活用推進を背景に拡大してきました。近年は開発人材に加え、FDEやPMなど、事業と技術をつなぐ役割のニーズも高まっています。今後は、スキルや稼働条件だけでなく、入社頻度、チームとの相性、正社員転換の可能性まで含め、企業と人材の最適な関係性を設計する力がより重要になります。Relanceとしても、こうした変化に向き合い、双方の中長期的な活躍につながる支援を行っていきたいと考えています。

企業名 株式会社Hajimari

コメント ITプロパートナーズ事業部 事業部長 亀田 壮司 氏

フリーランスの活用目的の最多が『特定の業界経験を持つエンジニアが見つかったため』だったことから、フリーランス活用は単なる労働力の補填ではなく、経営を左右するような専門人材を確保するための戦略として定着しつつあることがわかります。また、9割以上の企業が生成AIの活用に向き中との結果からAIを使いこなせるフリーランス人材への需要は今後もさらに高まると予測しています。弊社もAIの波を捉え、フリーランスと企業双方にとって価値あるマッチングの実現に努めてまいります。

ITフリーランスエージェント事業者見解

企業名 パーソルクロステクノロジー株式会社 **コメント** Techフリーランス本部 本部長 出来 慎太郎 氏

当該レポートからも見られるように、市場はポジティブな成長を続けることが予想されます。その根拠として「これまでフリーランス活用の無かった企業」が活用を検討していることです。多くの企業様から当社にお問い合わせ頂く内容も同様のお声を頂くことが増加しており、それを日々、肌で感じます。またフリーランス活用を単なる戦力補強という活用方法から、戦略立案や営業活動に至るまで、ご相談頂く内容は多岐にわたり難易度を増している印象です。当社もそのようなご期待やお悩みにお応え出来る優秀なフリーランサー獲得に向けて企業努力を続けて参ります。

企業名 株式会社PE-BANK **コメント** 経営企画部 部長 齋藤 武将 氏

約40年前に弊社がITフリーランスエージェントビジネスを立ち上げた時代から生成AIが普及し始めた昨今、需要構造は「量から質」へと大きく転換してきています。例えばハイスキルのプログラマーから上流行程を得意とするエンジニアへの需要にシフトしてきています。またITフリーランスエージェントも乱立し、優秀なエンジニアの獲得競争が加速し、業界は活性化してきています。今後ITフリーランスの需要が高止まりしていくことが予想されるなか、我々も高いIT知識とエージェント能力を持ちエンジニアや企業と向き合うことが必要になると感じています。

企業名 ファインディ株式会社 **コメント** Findy Freelance事業部 執行役員 末本 充洋 氏

ITフリーランス市場は、働き方の多様化や企業のデジタル化推進を背景に、この10年で大きく成長してまいりました。Findy Freelanceもその流れの中で、エンジニア様と企業様のマッチングを通じ、多くの方の活躍を支援させていただいております。現在、開発現場ではAIエージェントの実用化が急速に進み、求められる人材像は「開発リソースの確保」から「高い専門性やAI前提の設計力の確保」へとシフトしています。こうした変化は、特定スキルを持つ人材を機動的に確保できるフリーランス活用の強みを、より際立たせるものと捉えています。Findy Freelanceでは、AIを活用して高いパフォーマンスを発揮できるハイスキルのエンジニアの活躍機会拡大に注力するとともに、週3～4日稼働など成果ベースの柔軟な働き方にも対応したマッチングを強化してまいります。技術と社会の変化をいち早く捉え、エンジニア様のキャリア最大化と企業様の事業・組織成長に貢献してまいります。

ITフリーランスエージェント事業者見解

企業名 株式会社 Branding Engineer
(株式会社 TWOSTONE&Sonsグループ)

コメント 代表取締役CEO 大島 孝之 氏

AIの進化による開発体制の激変や上流のPM/PMO 需要の急増など、市場環境が急変する中で双方を最適に結ぶエージェントの重要性が高まったことが成長背景です。今後はAIスキル前提の時代となり、単なる案件紹介に留まらず、人材へのリスキリングや雇用形態の多様化に伴うキャリア支援、企業への体制構築支援まで、双方の「長期的な目線での成長」を促せるエージェントの需要が拡大すると見込んでいます。当社はその先頭に立ち、市場の拡大を牽引してまいります。

企業名 株式会社ヘルスベイス

コメント テックエージェント事業部 事業部長 河下 大輔 氏

ITフリーランスエージェント市場は、企業のDX 推進と慢性的なIT人材不足を背景に、この10年で約3.6倍へと拡大してきました。今後は国内の労働人口減少により人材供給の伸びが鈍化する一方、AI・クラウド領域を中心に高度デジタル人材へのニーズは一段と強まると見込んでいます。こうした中で現場で感じているのは、企業が求める人材像が「人数」から「課題を解けるかどうか」へと変わってきていることです。市場が量から質へ移る今だからこそ、スキルだけでなく相性や継続性まで見据えたマッチングが、エージェントの役割の中心になっていくと考えています。

まとめ

05

まとめ

本レポートでは、IT人材領域におけるフリーランス市場、そしてその主要なプレイヤーであるフリーランスエージェントに焦点を当て、詳細な市場分析を行ないました。本調査にご協力いただいたITフリーランスを受け入れている企業の皆様、そしてフリーランスエージェントの皆様には改めて深く感謝申し上げます。

IT人材の活用というテーマは、生成AIをはじめとするテクノロジーの急速な進化により、大きな変革期を迎えています。開発プロセスや組織構造が変化する中で、人材に求められる役割も確実に変わりつつあります。IT人材自体は今後も人不足が続くものの、その役割や求められる業務内容の変化は着実に進んでいくでしょう。

そうした中で、即戦力としてのフリーランス人材への需要は依然として高い水準にありますが、その中身は変化しています。単に人員数をそろえる人月モデルから、高い生産性と専門性を持つ人材への集中という質的転換が本格化しつつあります。

また、国内の人口が減少する中で、IT人材そのものの供給も今後高止まりになるとみています。その影響はフリーランス市場にも及び、これまでのような急成長から、より緩やかな成長へと移行していくと見込んでいます。とはいえ、引き続き豊富なDX需要と産業構造の変化が市場の下支えとなり、フリーランス市場は引き続きポジティブな市場であることに変わりはありません。

また、高度なスキルを持つデジタル人材の需要が高まる中、人材の確保や見極めには高度なマッチングが必要となるため、フリーランスエージェントの存在意義と役割は一層重要性を増していくとみています。拡大する市場の中で、今後の動向をどのように分析し、対応していくかは極めて重要です。当社としても、引き続き市場分析を継続していくとともに、フリーランスエージェント事業を行う事業者と密接に連携し、業界の健全な発展に向けてより良いサービスの向上とマーケットの明確な定義に貢献できるよう努めていきたいと考えています。本レポートが、皆様の事業活動における意思決定の一助となれば幸いです。

調査について

06

調査要領

ITフリーランスを活用する企業動向

調査期間 2026/3/23 ~ 2026/3/24

調査方法 株式会社マクロミルによるネットリサーチ

有効回答数 515名

調査対象 ITフリーランスを活用している企業に所属し、ITフリーランス活用の採用・導入・判断意思決定者

調査協力企業

企業名 INTLOOP株式会社

会社HP <https://www.intloop.com/>

サービス名 ハイパフォーマーコンサルタント

サービスURL <https://www.high-performer.jp/consultant/>

企業名 株式会社ウィルオブ・ワーク

会社HP <https://willof-work.co.jp/>

サービス名 ウィルオブ・フリーランス

サービスURL <https://willof-freelance.jp/>

企業名 株式会社Olive

会社HP <https://olive.style/>

サービス名 フリーランスのミカタ

サービスURL <https://freelance-mikata.com/>

企業名 ギークス株式会社

会社HP <https://www.geechs.com/>

サービス名 GEECHS JOB

サービスURL <https://geechs-job.com/>

企業名 株式会社クラウドワークス

会社HP <https://crowdworks.co.jp/>

サービス名 クラウドワークス テック

サービスURL <https://tech.crowdworks.jp/>

企業名 株式会社サーキュレーション

会社HP <https://circu.co.jp/>

サービス名 FLEXY by PKSHA

サービスURL <https://flxy.jp/>

企業名 株式会社スリーシェイク

会社HP <https://3-shake.com/>

サービス名 Relance

サービスURL <https://relance.jp/>

企業名 株式会社テックビズ

会社HP <https://techbiz.com/>

サービス名 TECHBIZ

サービスURL <https://freelance.techbiz.com/>

企業名 株式会社Hajimari

会社HP <https://hajimari.inc/>

サービス名 IT プロパートナーズ

サービスURL <https://crowd.itpropartners.com/pieceblog/>

企業名 パーソルクロステクノロジー株式会社

会社HP <https://persol-xtech.co.jp/>

サービス名 フリーランスサービス

サービスURL <https://freelance.persol-xtech.co.jp/>

調査協力企業

企業名 株式会社PE-BANK

会社HP <https://pe-bank.co.jp/>

サービス名 Pe-BANK フリーランス

サービスURL <https://pe-bank.jp/>

企業名 ファインディ株式会社

会社HP <https://findy.co.jp/>

サービス名 Findy Freelance

サービスURL <https://freelance.findy-code.io/>

企業名 株式会社Branding Engineer

会社HP <https://b-engineer.co.jp/>

サービス名 Midworks

サービスURL <https://mid-works.com/>

企業名 株式会社ヘルスベイス

会社HP <https://h-basis.co.jp/>

サービス名 フリコン

サービスURL <https://freelance-concierge.jp/>

社名 ITフリーランス支援機構

HP <https://aitf.or.jp/>

■発行元

フリーランススタート(エン株式会社運営)

エン株式会社：<https://corp.en-japan.com/>

フリーランススタート：<https://freelance-start.com/>

■発行日

2026年6月10日

■本件に関する問合せ先

【本調査の引用・取材に関するお問合せ】

エン株式会社 広報担当 en-press@en-japan.com

【フリーランススタートサービスに関するお問合せ】

フリーランススタート担当 contract@freelance-start.com

■引用・転載にあたってのお願い

本調査レポートは無償で引用・転載頂くことが可能ですが、引用・転載の際は、必ず出典元の明記をお願いいたします。

出典：フリーランススタート(<https://freelance-start.com/>)「2026年版ITフリーランス市場・活用調査レポート」